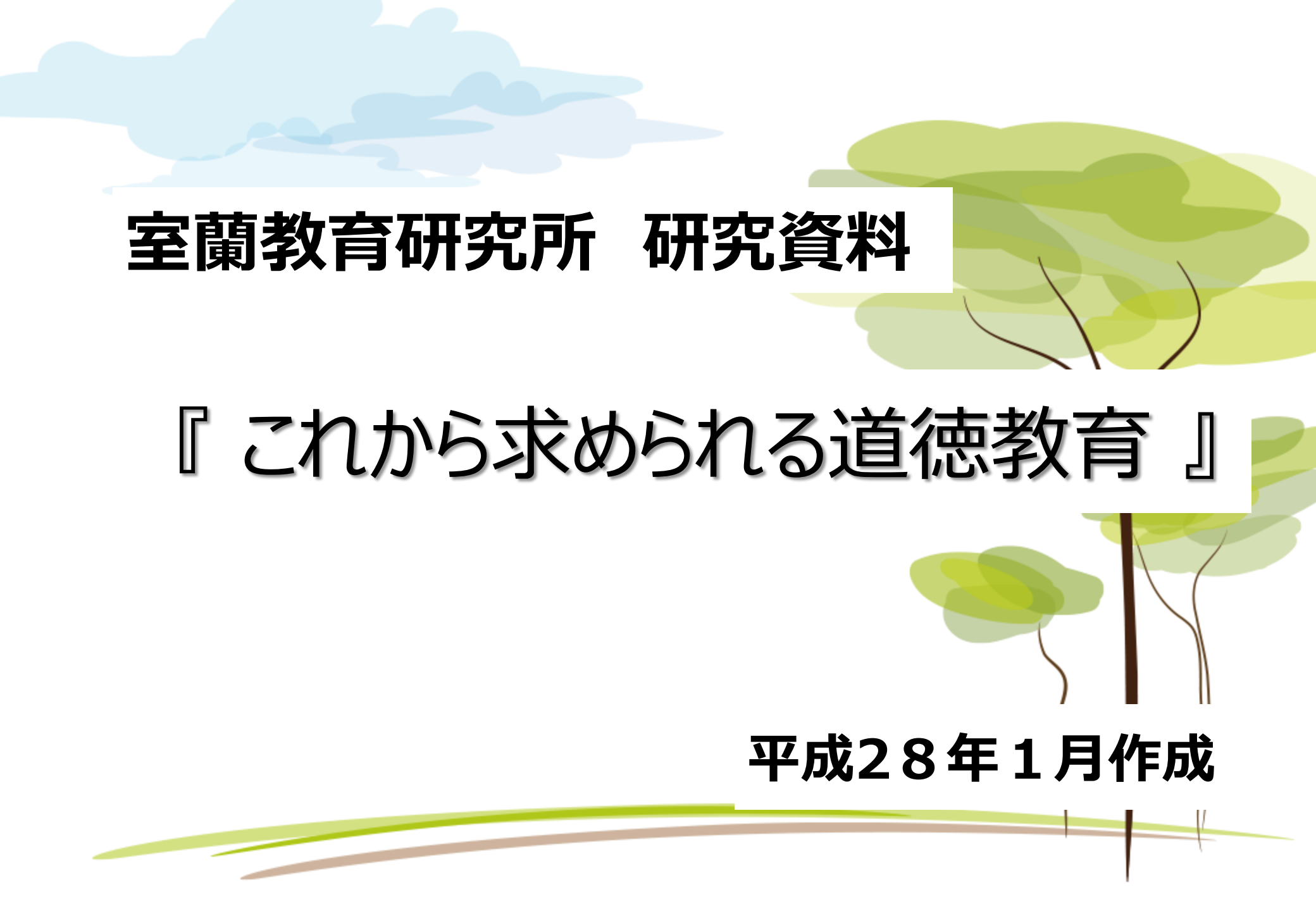




室蘭教育研究所 研究資料

『これから求められる道徳教育』

平成28年1月作成



Q 1 そもそも道徳教育と道徳の授業の違いは何ですか？①

「道徳教育」とは

児童生徒の**道徳性**を養うことを目的に、**全教育活動を通じて**行われるもの。

※「道徳性」→人間としてよりよく生きようとする人格的特性。

「道徳性を構成する諸様相」→道徳的判断力・道徳的心情・道徳の実践意欲と態度。

しかし、それぞれの教育活動には**特有のねらい**がある。

そのため、さまざまな道徳的な価値について

- **その全てについて考える機会があるとは限らない。**
- **徹底さに欠く、偏りがみられる。**
- **じっくり考え、深めることができない。** 等



Q 1 そもそも道徳教育と道徳の授業の違いは何ですか？②

そこで、「道徳の授業」(年35時間)において

- ・ 取り扱う機会が十分でない内容項目を補う。
- ・ 実態等を踏まえて、一層深める。
- ・ 内容項目の相互関連を捉え直したり、発展させていく。

改正前
補充
深化
統合

このことから、道徳の授業は、全教育活動で行う道徳教育の「要(かなめ)」の時間として位置づけられている。

【注意】

道徳の授業を要とした「道徳教育」を効果的に進めていくためには、全体計画や年間指導計画(別葉含む)等の作成、整備、工夫、改善が重要。



Q 1 そもそも道徳教育と道徳の授業の違いは何ですか？ ③

「学級活動」の授業と「道徳」の授業
の違いは何ですか・・・



「学級活動」の授業では

- 「望ましい集団活動」を通して、自主的・実践的な**態度**や健全な生活**態度**の育成。

<指導内容>

学級や学校の生活づくり、適応・成長・健康安全、学業と進路指導 など

「**態度**」(評価規準あり) = 「**行為**」 → **即効性を期待**

◆効果が期待される場面

⇒ 主に**現在の活動状況**(身近な学校・家庭・地域)



Q 1 そもそも道徳教育と道徳授業の違いは何ですか？④

いっぽう「道徳」の授業は

「**道徳的**な**判断力**、**心情**、**実践意欲**と**態度**」を育む時間。

（ 全教育活動で行われる道徳教育も含む ）



適切な行為を**主体的に選択**し、**主体的に実践**することができるような**内面的な資質**を育成

「**道徳的**な**態度**」とは、

道徳的価値を実現しようとする意志に裏付け
された、具体的な 「 **道徳的行為** 」への「 **身構え**」。

道徳的実践（行為）
につながる**内なる力**

「**道徳的**な**態度**」(評価規準なし) **≠** 「**行為**」 → **即効性は期待しない**

◆ 効果が期待される場面 ⇒ **現在、将来、広く社会全般**



Q 2 どうして道徳の時間が教科化されたのでしょうか？①

《 社会的背景 》

- 「いじめ」問題への対応。（善悪の指導）
- 高度化・複雑化した社会への対応。

困難な問題に主体的に対処できる実効性のある力の育成

《 道徳授業の課題 》

- 他教科に比べ軽んじられているのではないか。
- わかりきったことを発言させる授業。
- 「読み物」での心情理解に偏った形式的・受身的な授業。 等

学校や教師によって差がみられる



Q 2 どうして道徳の時間が教科化されたのでしょうか？②

60年ぶりの抜本改革 道徳を「特別の教科」に位置づける

- 平成27年3月に学習指導要領を改正
- 平成27年～29年 移行期間
- 平成29年～ 小学校教科書採択
- 平成30年～ 小学校完全実施
中学校教書採択
- 平成31年～ 中学校完全実施



Q 3 教科化で何がどうかわるのか①

【改正にあたっての基本的な考え方】

「特定の価値観を押しつけたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」

「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である。」



(H26中教審答申、学習指導要領解説)

児童生徒が主体的に考え続ける道徳教育の推進を目指す



Q 3 教科化で何がどうかわるのか②

【授業面の転換】

- 発達段階に応じ、例えば、「正義」とは何か、「権利と義務」とは何だろうといった、答えが一つではない課題を、一人一人の児童生徒が道徳的な問題と向き合うことができる授業への質的な転換を図る。



「考える道徳」、「議論する道徳」への転換

(内面的な資質・能力を主体的に養う指導へ)



Q 3 教科化で何がどうかわるのか③

【制度面の転換】

- ① 道徳科に**検定教科書を導入**
 - ・教科書は各学年ごとに分冊となる
- ② **数値による評価ではなく**、児童生徒の学習状況や道徳性に係る**成長の様子**を把握(**記述式**)
→ **個人内評価 (優劣は決めない)**

・評価方法が違う
・指導方法が異なる
⇒「**特別の教科**」

【 注意 】

「道徳の授業」以外のすべての授業は「**目標に準拠した評価**」

今後、学習指導要領の全面改定にあわせて「指導要録」の様式が見直される。



Q4 改正学習指導要領「特別の教科 道徳」のポイント①

【道徳教育の目標】

「道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた**教育の根本精神に基づき**、自己の（人間としての）生き方を考え、**主体的**な判断の下に行動し、**自立した人間として他者と共によりよく生きる**ための基盤となる**道徳性を養う**ことを目標とする。」

中学校の表記

小学校の表記

※ シンプルで分かりやすい表現に変わる。

<参考～改正前の学習指導要領>

小学校学習指導要領（抜粋）

第1章 総則

「学校における道德教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道德の時間をはじめとして各教科、特別活動及び総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない。

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、個性豊かな文化の創造と民主的な社会及び国家の発展に努め、進んで平和的な国際社会に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道德性を養うことを目標とする。道德教育を進めるに当たっては、教師と児童及び児童相互の人間関係を深めるとともに、家庭や地域社会との連携を図りながら、ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道德性の育成が図られるよう配慮しなければならない。」

第1 目標

「道德教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道德的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道德性を養うこととする。」



Q4 改正学習指導要領「特別の教科 道徳」のポイント②

【道徳科の目標】

「よりよく生きるための基盤となる**道徳性を養うため**、道徳的諸価値についての**理解を基に**、自己を見つめ、物事を広い視野から**多面的・多角的に考え**、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**」

改正前は「道徳教育の目標」に記載されていた表記。

※「**道徳的実践力**」という文言が**削除**され、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度（道徳性）**で**一本化**された。

<参考～改正前の学習指導要領>

小学校学習指導要領（抜粋）

第3章 道徳

第1 目標

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における**道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的实践力を育成するものとする。**





Q4 改正学習指導要領「特別の教科 道徳」のポイント③

【内容項目】

キーワードを設け、各項目ごとに各学年の指導内容が整理される。
小・中の体系性を高め、構成やねらいを分かりやすく明示する。 など。

A 主として自分自身に関すること

B 主として人との関わりに関すること

C 主として集団や社会との関わりに関すること

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

※ 児童・生徒にとっての対象の広がりに応じて項目を整理。（CとDを入れ替え）

<内容項目の数> ※()内は改定前の項目数

小学校低19(16)、中20(18)、高22、中学校22(24)

小学校低学年から「いじめ、自尊感情」に係る価値項目を追加



Q4 改正学習指導要領「特別の教科 道徳」のポイント④

【指導方法に関して】

- ◇ 「考え、議論する道徳授業」への指導転換
- ◇ 多様な方法を取り入れた指導の工夫

- 問題解決的な学習（小：話し合い、中：議論）
- 複数時間を用いた指導、重点的な指導
- 体験的な学習等を取り入れる指導
 - ・体験的行為や活動そのものを目的として行うのではなく、それらを通じて学んだことを生かして考えることが大切。
- 現代的な課題に関する指導
 - ・いじめ防止、安全、情報モラル、社会の持続可能な発展、社会参画等。



Q5 本時の指導過程の例 ① <導入の段階>

興味や関心を高め意欲を喚起し、動機付けを図る段階

- 教材の内容に**関心**を持たせる。
- 価値内容の**方向付け**をする。
- ◎ 「何についての学習なのか」を**焦点化**する。
- ◎ 主題に関わる**問題意識**を高める。



教材に含まれているさまざまな価値のうち、どの価値について考えていくのかを明確にする。



Q5 本時の指導過程の例 ② <展開の段階①>

ねらいを深めるための中心となる段階

- 対話、議論、話し合い→考えを深める
 - ・ 主体的・協働的な学習を展開
 - ・ さまざまな指導方法や言語活動の工夫

**アクティブ・
ラーニング**

【展開の前段】※中心教材を用いる。

「価値の追究・把握」の段階 〈自己の生き方と重ねる・比べる活動〉

- 物事を**多面的・多角的**に考える。
- 自分の問題として自己を見つめる。
- 友達の考えと自分の考えの相違に気付く。

話し合いの「型」にこだわるのではなく、①深い学び、②対話的な学び、③主体的な学びの過程の実現を目指すための**授業の視点**。





Q5 本時の指導過程の例③ <展開の段階②>

【展開の後段】 ※中心教材から離れる。

「主体的な価値の自覚」の段階
〈自己の生き方をみつめる活動〉



道徳の授業
特有の授業展開

- **自分**の考えやこれまでの経験をふり返る。
- **自分**の良さや不十分さを自覚する。
- **自分事**として、道徳的な価値への理解を深める。

※ 教材内の特定場面から離れ、広く道徳的な価値に目を向ける。

(一般化)

最近の先進事例でみかける展開後段の例

- 実際の道徳的実践（行為）へのイメージ化。



Q5 本時の指導過程の例④ <終末の段階>

思いや考えをまとめたり、実現する良さや難しさ等を確認し、**今後の発展につなげる**段階

- 考えたこと、新たにわかったことを確かめたり、更に深く心に留めたり、**今後の思いや課題を考える**。
- 学習の**振り返り**、変容の**見取り**、**自己評価**等を行う。
- “**これまで**”の自分自身の姿を振り返り、“**これから**”の自分の**在り方**、**生き方**に思いをはせる**個**の時間。



- ・さまざまな意見を**一つにまとめない**。
- ・**価値のおしつけ**や**決意表明**は**NG**。

あくまでも**個人内評価**なので、**考え方**（評価の規準）に違いが生じてもよい。

<参考～道徳科における指導方法の例>



過程	心情理解中心の学習	問題解決的な学習	体験的な学習（役割演技等）
導入	①道徳的価値に関する内容提示	①問題の発見 ・教材や日常生活から道徳的な問題を見つける。	①資料の提示 ・資料概要の説明や登場人物の確認等。
展開	②登場人物の心情の読み取り ・教科的な心情の読み取りとならないように、登場人物を借りて自分の考えを述べたり、深めることができるように留意する。 ③振り返り ・これでまでの自分の在り方を振り返り、これからの自分の在り方を考える。	②問題の探究 ・話し合いを通じて、問題解決を図る糸口を多面的・多角的に考え議論を深める。 ③問題の解決 ・問題の探究を踏まえ、問題に対する自分なりの考えや解決方法を導き出す。 ※学活との混同に留意。	②道徳的価値を含む問題場面の提示 ・心情理解 ・問題状況の把握 ③再現の役割演技 ・問題場面を役割演技で再現し、登場人物の心の葛藤を理解するとともに、取り得る行動を多面的・多角的に考える。 ④新たな場面の提示 ・再現演技で学んだことを一般化するため、同様の新たな問題場面の提示し、取り得る行動を多面的・多角的に考える。 ⑤解決の役割演技 ・新たに提示された場面について、考えた取り得る行動を再現し、解決を図る。
終末	④まとめ ・教師の説話価値の押しつけとならないように留意する。 ・自己評価等	④まとめ ・本時を振り返り、本時で学習したことを今どのように生かすことができるかを考える。	⑥まとめ 感想を聞き合ったり、シートに記入したりして、自分の取り得る行動について振り返る。

(注)「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」(H27.8.27)配付資料を参考に一部編集を加えています。



Q6 これから求められる道德の姿①

① 道德授業の指導と評価の工夫・改善

- 形式的・受け身的な授業から、「**考え、議論する道德授業**」への転換を図るための指導方法の工夫・改善、日常実践の積み上げ。
- 一人一人の**良さや成長をみとる評価**の在り方。
 - 自己評価、作文、ノート、観察、ポートフォリオ評価等
 - 学校としての評価方法をどのように確立していくか。

道德性が養われたかどうかの判断は難しい。だからこそ、道德の授業を意図的・計画的に指導し、評価していくことが必要。**(行き当たりばったりの指導では**個人内評価**はできない)**



Q6 これから求められる道德の姿②

② 道德教育の視点からの学校スタンダードの確立

- めざす児童・生徒像の明確化・共有化・重点化。
 - ・ 「年間35時間」－「価値項目数」＝「学校裁量の時数」
 - ・ 重点指導、複数時間指導等をどのように取り扱っていくのか。
→ **道德教育に対する学校の考え方が問われる。**
- 道德教育の全体計画（別葉含む）及び年間指導計画の作成と工夫・改善が重要。

日頃からの「**言語活動**の充実を図った授業展開」と、
「**信頼関係**や**温かい人間関係**の醸成」等が大切。